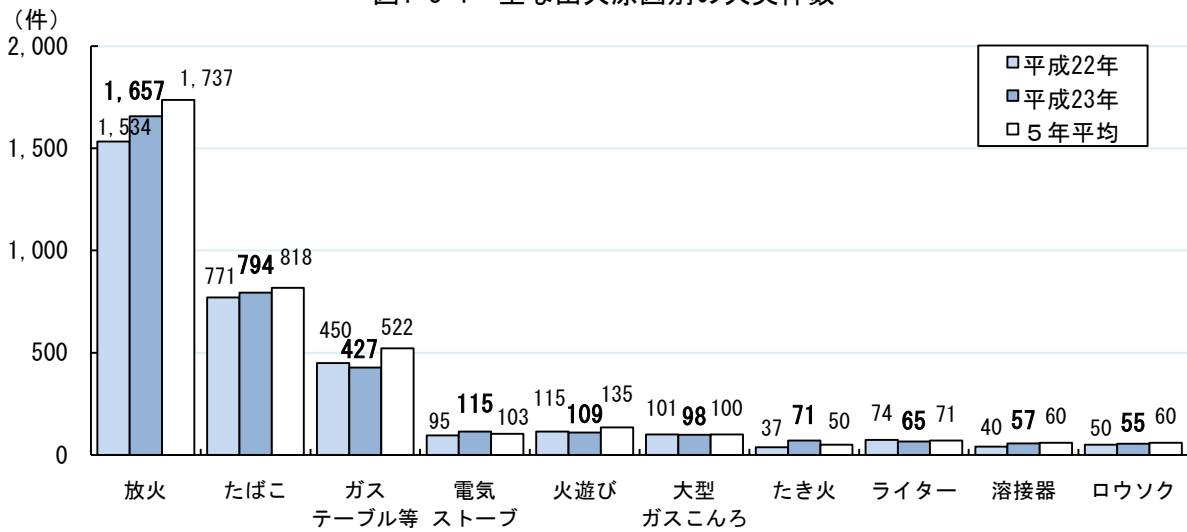

3 主な出火原因別の傾向 ～放火、たばこ、電気ストーブが増加～

(1) 主な出火原因別発生状況

平成23年中の火災の主な出火原因を図1-3-1で見ると、最も多いのが「放火（疑いを含む、以下同じ。）」の1,657件で、前年と比べて123件増加していますが、最近5年平均（平成23年を含む5年間の平均、以下同じ。）と比べると80件少なくなっています。平成23年の放火火災の全火災件数（治外法権を除く。）に占める割合は31.0%で、前年の30.2%と比べて0.8ポイント増加し、依然3割以上を占めています。

「放火」の中で、連続放火と思われる火災（同一日内とその翌日までに同一地域に5件以上発生した火災、以下「連続放火火災」という。）は5回で、前年と比べて1回増加しました。このなかで最も件数が多かったのは、4月に足立区内で発生した連続11件の放火火災でした。

図1-3-1 主な出火原因別の火災件数



出火原因の第2位から第5位までをみると、「たばこ」、「ガステーブル等」、「電気ストーブ」、「火遊び」の順で発生しています。「たばこ」は794件で前年と比べて23件増加していますが、5年平均と比べると24件少なくなっています。「ガステーブル等」は、前年と比べて23件減少しており、最近5年間をみても減少傾向で推移しています。「電気ストーブ」は前年と比べて20件増加しており、最近5年平均と比べても12件多くなっています。

第6位以下の主な出火原因をみると、前年と比べて「大型ガスこんろ」が3件減少、「たき火」は34件増加し、最近5年平均と比べても21件多くなっています。「ライター」が9件減少、「溶接器」が17件増加、「ロウソク」が5件増加となっています。

第10位以下で増加がみられたのは、「蛍光灯」が45件で20件の増加、「石油ストーブ等」が32件で13件の増加、「大型ガスレンジ」が27件で8件の増加、「配電線」が35件で7件の増加などとなっています。

(2) 特徴的な出火原因

ア 電気ストーブの火災状況

「電気ストーブ」(温風機、ハロゲンヒータ、カーボンヒータを含む。以下「電気ストーブ」という。)から出火した火災は115件で前年と比べて20件増加しており、最近5年間では最も多く発生しています。

「電気ストーブ」の火災発生経過をみると、布団などの可燃物が電気ストーブに接触して出火したケースが58件(50.4%)で前年と比べて2件増加しており、「電気ストーブ」火災の5割以上を占めています。

イ 蛍光灯の火災状況

「蛍光灯」から出火した火災は45件で前年と比べて20件増加しており、最近5年間では最も多く発生しています。

「蛍光灯」の火災発生経過をみると、安定器などの絶縁劣化により発熱して出火したものが22件(48.9%)で前年と比べて11件増加しており、「蛍光灯」火災の5割近くを占めています。